

Column

リーダーになりませんか



栗原 和枝

原子分子材料科学高等研究機構 (WPI-AIMR) 教授・主任研究者  
多元物質科学研究所 ナノ界面化学研究分野 教授

あなたはリーダーになりたいと考えていらっしゃるだろうか。従来、女性は家庭を守り、働いても補助的な仕事という男女分業の考え方があった。意識しないとなかなか変わりにくい社会の気分のために、この「コラム」欄もあるのかもしれない。二つの経験を書いてみたい。

ある学会の女性対象のシンポジウムの講師をつとめた時、懇親会での若い女性技術者との会話：「最近、リーダーになるように上司に言われているのだけれど、困ったなあと思っています」。どうして困っているのかよくわからなかったが、大変闊達な方で、上司は彼女に活躍して欲しいと期待し、チャンスあるいは研鑽の機会をと思っておられる気がした。あまり例のないことをするのは億劫かもしれない。でも、仕事をしていくのなら、スキルを上げ、可能性を広げる機会は感謝して受けるべきではないかと答えた。

国際純正ならびに応用化学連合(IUPAC)は、2011年以来、国際女性化学者賞を2年毎に授与している。その基準は、研究における業績、ならびに教育または社会や組織におけるリーダーシップまたはサービス等となっていて、女性も研究者として優れた業績を挙げながら、社会の一員としても活躍することの大切さが強調されている。

若い人たちには、「研鑽を積み、是非リーダーとしても活躍してください」と伝えたい。そのうち、女性リーダーという言葉はなくなるはずである。

Science Angel

平成26年度 サイエンス・エンジェル活動実績 (12月1日現在)

- 6/7(土) SAオリエンテーション
  - 6/26(木) 出張セミナー：秋田県立秋田南高等学校
  - 7/20(日) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2014への出展
  - 7/29(火) 日本が誇るマテリアルの世界(材料フェスタin仙台) ワークショップの実施
  - 7/30(水)、31(木) オープンキャンパスfor女子高校生2014
  - 8/9(土)、10(日) 国立科学博物館「サイエンススクエア2014」への出展
  - 8/21(木) 楽しい理科のはなし～不思議の箱をあけようへの出展
  - 9/5(金)、6(土) 出張セミナー：茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
  - 9/11(木) 出張セミナー：山形県村山市立樋岡中学校
  - 10/4(土) 第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加
  - 10/16(木) 出張セミナー：宮城県宮城第一高等学校
  - 10/18(土) 出張セミナー：山形県立山形西高等学校
  - 11/8(土)、9(日) サイエンスアゴラ2014への出展
  - 11/15(土) 出張セミナー：山形県立山形東高等学校
  - 11/29(土) 第11回東北大学男女共同参画シンポジウムへの参加
- (今後の予定：出張セミナーなど)



オープンキャンパス



出張セミナーの様子

Report of the Seminar

女性リーダー育成  
平成26年度 第2回  
沢柳フェローとのランチミーティング  
『外部資金獲得セミナー』の実施



女性リーダー育成の一環として、沢柳フェローの先生方を囲んで、外部資金獲得のための情報交換を目的としたランチミーティングを開催しました。初めに、小谷元子先生より現在の外部資金についての概要の紹介と、異分野融合分野に適した外部資金として内閣府特別予算「科学技術イノベーション総合戦略2014」についての紹介があり、参加者との質疑応答がありました。沢柳フェローの先生方からは「申請書のチェックは分野の違う先生にも目を通していただくのがよい」「出願分野の選択方法をよく検討するとよい(基盤または萌芽どちらに出すのが良いか、他にどんな選択肢があるか)」など具体的な助言がありました。参加者からは「色々な分野からの先生方が参加されていたので、科研費申請に関する共通の悩みやコアな情報など多岐にわたる情報を得ることができました。科研費申請以外にも、所属機関の運営や人生経験などを伺い、女性研究者のロールモデルである先生方の本音を聞かせて頂きました。」などの感想を頂きました。本センターでは今後も女性リーダー育成に係る企画を継続して実施していきます。

【開催日】 2014年9月3日(水)  
12:00-13:30  
【会場】 片平北門会館2Fセリシール  
【参加した沢柳フェロー】小谷元子先生、杉本亜砂子先生、田中真美先生、永次史先生  
【参加者】 17名

女性リーダー育成イベント

●平成26年度 第1回 沢柳フェローとのランチミーティング

【開催日】 2014年5月20日(火) 12:00-13:30  
【会場】 片平北門会館2Fセリシール  
【参加者】 22名  
●農学部・農学研究科教職員研修での講演  
【開催日】 2014年6月19日(木) 13:15-15:30  
【会場】 農学研究科第一講義室  
【講演タイトル】 「東北大学男女共同参画の取り組みについて」  
【講演者】 田中 真美副センター長

Information

東北大学 病後児保育室  
星の子ルーム



全学の職員・学生が利用することができる病後児保育室です。病後児保育とは、病気の回復期で登園・登校できない状態でありながら家庭で世話をする人がいないお子さんを保護者にかわって看護・保育します。初めてご利用の方もお気軽に連絡してみてください。

○「星の子ルーム」について

【対象】 発熱等の症状があり集団生活が困難な体調不良の生後6ヶ月～小学3年生  
【場所】 東北大学病院外来診療棟A 5階  
【時間】 月曜日～金曜日 7:30～18:00(祝祭日及び年末年始の休日を除く)  
【料金】 保育料(昼食・おやつ含む) 1人あたり2時間未満…1000円/2時間～4時間未満…2000円/4時間以上…3000円  
【職員】 看護師2名、保育士2名  
詳細は星の子ルームへお電話ください。  
TEL&FAX 022-717-7819(土日祝日除く、7:15～18:00)



2014  
VOL. 1

「TUMUG」とは「Tohoku University(東北大学)」「Movement(運動、活動)」「United(団結、協力)」「Gender(ジェンダー、男女)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。



- 01 ▶ センター長、副センター長 ご挨拶
- 02 ▶ 「7つの行動指針」  
▶ 本センターの支援実績  
▶ デニス・ザ 英国上院議長来訪  
▶ ノルウェー大使 来訪
- 03 ▶ 男女共同参画シンポジウム報告・澤柳記念賞決定  
▶ センター愛称・ロゴ受賞者発表、センターHPリニューアル
- 04 ▶ コラム:栗原和枝先生



東北大学  
男女共同参画推進センター  
センター長  
植木 俊哉  
東北大学理事  
(総務・国際展開・事務統括担当)

東北大学  
男女共同参画推進センター  
副センター長  
大隅 典子  
総長特別補佐(男女共同参画)  
医学系研究科 教授

東北大学  
男女共同参画推進センター  
副センター長  
田中 真美  
医工学研究科/  
工学研究科 教授

東北大学  
男女共同参画推進センター  
副センター長  
米永 一郎  
金属材料研究所 教授

東北大学  
男女共同参画推進センター  
副センター長  
田中 真美  
医工学研究科/  
工学研究科 教授

東北大学  
男女共同参画推進センター  
副センター長  
米永 一郎  
金属材料研究所 教授

今年度から、東北大学に男女共同参画推進センターが立ち上がりました。昨年、女子学生入学百周年の節目を迎え、また、文科省の女性研究者養成システム改革加速事業も終了し、本学における男女共同参画は新たなフェーズに入ったといえます。折しも、現内閣は女性の力を活用して経済活性化を図る「ウーマノミクス」を提唱し、企業における女性比率等のデータを可視化するなどの取組みを始めていますが、真に男女共同参画を推進する上では、子育てしやすい環境整備、ワークシェアリングやワークライフバランスについての意識の醸成などが欠かせません。本学としては「東北大学男女共同参画行動指針」の7つの項目について、男女共同参画委員会とTUMUGが連携して進めていく予定です。

本学では、昨年度までの5年間、理学・工学・農学分野を対象として、「自立し、共生し、未来を育み、サイエンスを拓く都女性研究者」の育成を目標に、女性研究者育成支援加速プログラム「都の都ジャンプアップ事業 for 2013」を展開しました。事業期間中に、当該分野の女性教員45名が新規に採用され、昇任なども含め講師・准教授・教授が61%増加しました。また、各種セミナー等を開催し、女性研究者の研鑽の場を提供し、その能力向上を図ってまいりました。これらの成果は各種受賞や外部資金獲得の増加などに現れています。今年度からは、全学の女性教員を対象として展開しております。皆様と一緒にますます成長できることを期待しております。

本学では、皆様に子育てや介護のために研究や学業の停滞させることなく継続・遂行して頂くための支援として、ベビーシッター利用料補助や研究支援要員の制度を設け、学内保育園や病後児保育室を設置しています。2006年に始まりましたこれらの支援、初期には理系女性教職員限定という制約がありましたが、現在多くの制度は広く男性、学生、文系の方も利用することができます。そして、このような制度を有効に利用された多くの方が子育てしながら、優れた業績を挙げステップアップされています。皆様が年齢・性別によらず、個性を發揮される男女共同参画社会の早急な実現を願うところです。

東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion  
TEL 022-217-6092  
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
E-mail tumug@morihime.tohoku.ac.jp HP www.morihime.tohoku.ac.jp

## 男女共同参画 推進のための行動指針

平成25年8月



### 両立支援 環境整備

本学構成員が、年齢性別等を問わず、仕事や学業と生活との両立を図ることができるように、意識の醸成に努め、子育て支援のための学内施設の充実や介護支援を含めた制度等の環境整備と周知を進める。

### 女性リーダー 育成

アカデミアにおける男女共同参画の推進に向けて、女性研究者を積極的に採用・養成し、さらに学内および学会・社会のリーダーとして飛躍させるための支援・登用制度を整備する。

### 次世代 育成

将来性豊かな次世代女性研究者を輩出するために、サイエンス・エンジェル(SA)活動を継続・発展することなどにより、学部生・大学院生を対象とした研究者使命の意識啓発と醸成に努め、さらに実体験を通して育成する施策を推進する。

### 顕彰制度

アカデミアにおける男女共同参画の先駆として、各分野で活躍し多大な貢献をなした方々を選考し顕彰するため、新たな「東北大学男女共同参画賞」を創設する。

### 地域連携

東北地方の中心に位置する大学として、東北地方の多くの大学、行政機関等との連携を進め、地域発展や震災復興事業等における男女共同参画を推進する。

### 国際化対応

ワールドクラスへの飛躍に向けて、グローバルな研究・教育体制に相応しい、外国人研究者・留学生を対象とした様々な両立支援策を講じ、国際的観点に基づいて学内の男女共同参画を推進する。

### 支援推進体制

上記の男女共同参画活動を円滑に推進するために、男女共同参画担当理事(若しくは副学長)と総長特別補佐(男女共同参画担当)を置き、さらに「男女共同参画推進センター」の恒常的支援体制を整備する。

## デ=スーザ 英国上院議長が 本センターを視察



デ=スーザ英国上院議長が10月3日(金)東北大学を表敬訪問し、記念講演を行いました。スーザ議長は本学の里見総長などと昼食をともにした後、本センターを訪問しました。

植木センター長から本センターの説明が行われ、スーザ議長からは財源や、特に医学分野での大学における男女参画の状況についての質問がなされました。また大隅副センター長から、女性リーダー育成プロジェクトや、サイエンス・エンジェルの説明が行われると、「それなら私は上院エンジェルだわ」とコメントし、和やかな雰囲気になりました。

フランシス・デ=スーザ氏は、オックスフォード大学で進化モデル専攻の博士学位取得後、国際開発団体や人権団体等で要職を務め、2004年7月より上院議員となり、2011年9月、前任の議長に続き2代連続で女性議員から上院議長に選出されました。今回の来日に際し、「仙台市を訪問し東北大学で講演を行いたい」との強い希望により、来仙を記念しこの講演会を開催する運びとなりました。

## 駐日ノルウェー王国 リーメスタ大使が 本センターを来訪



駐日ノルウェー王国のアーリン・リーメスタ大使と大使夫人が10月7日(金)本センターを表敬訪問しました。

本センターからは、植木センター長、米永副センター長、田中副センター長、橋爪センター助手、サイエンス・エンジェルの3名が出席し、意見交換を行いました。日本では特に理系の女性研究者が少なく、次世代育成や養成が、近年活発に行われていることなどが植木センター長より伝えられ、サイエンス・エンジェルらは自身が理系へ進んだきっかけや将来の希望する進路などを伝えました。

大使や関係者からは、サイエンス・エンジェル活動の運営体制や実績、そして文部科学省の関連事業などに対して積極的な質問があり、ノルウェーでも、科学の分野では女性研究者・女子学生の数が少ないことが問題となっており、国の政策として何ができるかについて、今回得られた情報を持ち帰ってぜひ参考にしたい、というコメントがありました。約1時間におよぶ意見交換は、終始和やかな雰囲気で行われ、大使と関係者らからサイエンス・エンジェルへエールが送られました。

## 東北大学 男女共同参画の取り組み

実施  
状況

平成26年度

### 両立支援・環境整備

- ベビーシッター利用料補助制度 25件採択(平成18年度より延べ119件採択)  
(内容)研究、講義、出張時のベビーシッター等利用料の補助、(対象)全部局の教員、技術職員、PD、博士学生、(募集時期)2月頃
- 支援要員制度 8件採択(平成18年度より延べ55件採択)  
(内容)研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助、(対象)自然科学系の女性教員、(募集時期)2月頃
- 支援要員制度(シェア型) 2件採択(平成26年度より)  
(内容)採択者同士で事務補佐員1名をシェア、(対象)自然科学系の女性教員、(募集時期)2月頃

### 女性リーダー育成

- 研究スキルアップ経費 30件採択(平成21年度より延べ81件採択)  
(内容)女性研究者への会議・シンポジウム等の旅費支援、(対象)全部局対象の女性教員(准教授、講師、助教)、(募集時期)2月~10月頃
- スタートアップ研究費 6件採択(平成21年度より延べ23件採択)  
(内容)1年目100万円、2年目50万円の研究費を支援、(対象)全部局の新規採用の女性教員(助教以上)、(募集時期)2月~7月頃
- 沢柳フェロー 20名  
学内の学識・人格ともに優れた女性教授をフェローに任命  
若手女性研究者との交流会を実施しています。どうぞご参加ください。(平成21~平成26年度 延べ14回実施)

### 顕彰制度

- 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(澤柳記念賞)  
第1回授賞 A賞 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞  
辻村 みよ子 氏(明治大学法科大学院 教授)  
B賞 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画奨励賞  
SA輝友会(エス・エーきゆうかい)

### 次世代育成

- 女子学生海外渡航支援事業 2名採択(平成19年度より延べ16件採択)  
(内容)海外で開催される会議・シンポジウム等の旅費支援、(対象)大学院女子学生、(募集時期)5月頃
- サイエンス・エンジェル(SA) 71名採用  
(内容)自然科学系の女子大学院生が次世代のロールモデルとして出張セミナーやイベントを企画・実施、(募集時期)2月~5月頃

## 第11回 東北大学 男女共同参画シンポジウム開催

11月29日(土)に東北大学片平さくらホールにおいて、第11回東北大学男女共同参画シンポジウム「未来の男女共同参画社会への新たなる発信~女子学生入学101年目を迎えた東北大学から」を開催しました。当日は、本学のご出身である奥山恵美子氏(仙台市長)、森まさこ氏(前女性活力・子育て支援担当大臣)、そして、文部科学省生涯学習政策局長の河村潤子氏が来賓としてご挨拶、ご講演されました。本学からは、里見総長、植木センター長、男女共同参画委員会委員の先生方、各部署の先生方、サイエンス・エンジェル約30名らが参加しました。米永一郎副センター長からは、東北大学の女性研究者育成支援制度と男女共同参画についての説明があり、その中の研究スキルアップ支援を受けている女性研究者らによるポスター発表がありました。さらに、本学学生、卒業生らによる若手パネリスト4名と大隅典子副センター長とのパネルディスカッションが行われました。質疑応答では、男女共同参画のためのさらなる意識改革の必要性、女性の活躍促進、両立支援についてなど活発な意見がありました。参加者は過去最高の136名となり、男女問わず多くの方々にご来場いただきました。



奥山恵美子氏



河村潤子氏



森まさこ氏



会場の様子



パネルディスカッション

## 第1回 澤柳記念賞

東北大学では平成26年度より澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞(通称:澤柳記念賞)を創設しました。この度、第1回の受賞者が決定し、男女共同参画シンポジウムにて授賞式が行われましたのでご報告いたします。澤柳記念賞は、男女共同参画社会をめざす活発な取り組みの一助となるよう、アカデミアにおける男女共同参画の先駆として各分野で活躍し、多大な貢献をなした方々を選考し顕彰する制度です。



辻村みよ子氏



八木橋奈央氏  
(SA輝友会会長)

### A賞

明治大学法科大学院  
教授 辻村みよ子氏

〈課題名〉

日本の  
男女共同参画社会の  
推進を牽引する  
先導的活動について

〈受賞理由〉同氏は憲法学・ジェンダー法学を代表する学者の一人として、東北大学における男女共同参画実現に向けての礎を築いた。さらには、21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラムの拠点リーダーや、内閣府男女共同参画会議・専門調査会委員等を歴任し、学内外に研究成果や政策提言を発信しながら日本の男女共同参画社会推進を牽引してきた。この功績は特に顕著なものであり、ここに顕彰する。

### B賞

SA輝友会(エスエーきゆうかい)

〈課題名〉

東北大学  
サイエンス・エンジェル(SA)  
修生による  
男女共同参画推進の取組み

〈受賞理由〉同団体は東北大学サイエンス・エンジェルであった大学院修生を中心とする自主的な活動団体として、修了後も研究分野や職種を超えて交流を続けている。自ら科学イベント等の企画を行うほか、現役学生のSA活動や進路に関するアドバイスをを行うなど、ロールモデルとしても貴重な役割を果たしている。このような異なる分野を横断した理系の女子大学院生修生による活動の今後の一層の活躍を期待し、奨励賞として顕彰する。

## お知らせ

### HPリニューアル

本センターでは12月1日に新しいホームページを立ち上げました。今後、さまざまな情報発信を行ってまいりますので、ぜひご利用ください。



●ホームページURL  
<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/>

## 愛称・ロゴマーク 受賞者発表

本センター設置にともない、男女共同参画へのより深い理解を促すために、センターについて分かりやすく表現した愛称・ロゴマークを募集し、最優秀賞、優秀賞が決定しました。全国各地から愛称126点、ロゴマーク30点の応募がありました。ご応募ありがとうございました。

【愛称】 最優秀賞	「TUMUG(ツムグ)」 静岡県/島田 宏哉 様
優秀賞	「ゆいこ〜と」 北海道/朝倉 修 様
優秀賞	「Uniti(ユニティ)」 宮城県/熊谷 明哉 様
【ロゴマーク】 最優秀賞	群馬県/小池 友基 様
優秀賞	千葉県/神保 米雄 様
優秀賞	青森県/工藤 和久 様